



## 当院における文献検索について

日常診療や研究で、わからないことがあった場合に文献検索をすることがあると思います。今回は、当院で利用できる文献検索の方法について紹介したいと思います。

### 1) 日本語の文献を検索する

メディカルオンライン、医中誌、医書.jpの検索サイトは当院で利用登録をしています。ログイン時にIDとパスワードが必要になりますので、所属長にご確認ください。



### 2) 英語の文献を検索する

ProQuestは国立病院機構で契約しているため、HOSPnet回線で下記のサイトからアクセスすれば、ある程度の論文は全文を閲覧することができます。

<https://proquest.sunmedia.co.jp/nho/>

画面左にあるログインボタンをクリックしてください。検索画面が表示されます。

※エルゼビア社のサービスは昨年12月末で終了となりました。本年1月からはサンメディアの文献複写サービス（ARROW）を導入していますので、ProQuestで全文が閲覧できない論文については、臨床研究部へご相談ください。



## 臨床研究部からのお知らせ

### 1. 2025年度臨床研究部講座の実施報告

臨床研究実施に必要な手順や知識を解説する臨床研究部講座を2025年4月～10月に全9回実施いたしました。今年度は参加者55名（延べ人数）でした。今回は倫理審査手続きについて相談会も設けてみたところ、講座後のアンケート結果から、相談会では参加者の相談内容を解決できたとの感想をいただきました。アンケートでいただいたご意見等は今後の参考にさせていただきます。ありがとうございました。

### 2. 市民公開講座「知って安心！麻酔と大腸カメラ」

今回は、2025年10月25日（土）に病院フェスティバルと同時開催されました。「知って安心！麻酔と大腸カメラ」というテーマで、麻酔科・多田文彦先生と消化器内科・村木翔先生の講演、看護師さんによる麻酔マスクや内視鏡カメラなどの展示を行いました。

参加者の方々からの講座終了後のアンケート結果は以下の通りです。

アンケート回答者：34名（女性が約7割、51-60歳が約4割）

麻酔について知りたい（知りたかった）ことは、①身体への影響（30%）、②麻酔中の様子（26%）、③リスク（24%）、④麻酔前の準備（9%）、⑤麻酔後の症状（5%）でした。

大腸検査について知りたい（知りたかった）ことは、①痛み（34%）、②身体への影響（15%）、リスク（15%）、③検査中の様子（13%）、④検査前の準備（10%）、⑤検査後の生活（8%）でした。

今後の市民公開講座で聞いてみたいことは、健康、予防がそれぞれ約2割、アンチエイジング、感染症、検査がそれぞれ約1割のご意見でした。

アンケートは今後の参考にさせていただきます。ご協力いただいた方々には感謝いたします。





## 現在進行中の治験について

責任医師：中土井 芳弘

分担医師：一宮 俊文（児童精神科）、大西 将統（児童精神科）、福間 亮介（児童精神科）

対象疾患：児童・青少年 ADHD

対象年齢：6～17 歳

治験薬/投与方法：EB-1020 / 経口投与

開発相/デザイン：第Ⅱ/Ⅲ相 / 二重盲検、プラセボ対照、検証試験

第Ⅲ相 / 非盲検、非対照、長期投与試験

注意欠如・多動症（ADHD）は、社会的にも広く認知されるようになってきており、多動性、不注意、および衝動性の3つの症状を特徴とする疾患です。ADHD 患者は、しばしば反抗挑戦性障害、うつ病、不安症などの併存症もみられ、多様な症状が社会生活で様々な支障をきたしています。ADHD の正確な病態生理は今も不明ですが、脳内のドーパミンやそのほかの神経伝達が不均衡になることで ADHD の特徴である行動症状が発現すると広く考えられています。

現在、当院では児童・青少年 ADHD の治療薬に関する治験を実施しています。この治験では ADHD 症状を評価するいくつかのリストのベースラインからの変化量などから治験薬の効果の確認や治験薬の安全性等を確認します。

本試験で使用する治験薬は、新しい作用機序が含まれており、効果の立ち上がり早いことが特徴です。また、現在使用されている ADHD 治療薬の副作用として知られている食欲不振や悪心などの消化器症状や、傾眠や薬物依存の懸念が少ない新規 ADHD 治療薬として期待されています。



## 承認された医薬品のご紹介

医薬品として承認されました！

「くすりの候補（治験薬）」を用いて、国の承認を得るために治験薬の効果や安全性の成績を集める臨床試験を「治験」といいます。当院でもいくつか実施していますが、実施していた治験の治験薬が医薬品として厚生労働省より承認されました。これも治験に参加いただきました患者さまと患者さまのご家族のご理解とご協力あつてのことです。心より感謝申し上げます。また、院内スタッフの皆様、お力添えをいただきありがとうございました。

これからも、患者さまの安全性に最大限の配慮を行うとともに、患者さまの気持ちに寄り添い、治験を実施してまいります。治験の実施にご協力とご理解のほどよろしくお願いいたします。

医薬品	適 応	実施診療科	責任医師
ドルミカムシロップ 2mg/mL	麻酔前投薬	麻酔科	多田 文彦

医薬品の詳細については、下記の URL をご参照ください。

・ドルミカムシロップ 2mg/mL

<https://www.maruishi-pharm.co.jp/media/20250919.pdf>



臨床研究部 News Letter vol.24

発行日：2026年2月2日

編集発行：臨床研究部